

象潟前川地区景観保全型ほ場整備 グラントデザイン



令和3年7月

象潟前川地区景観保全型ほ場整備推進委員会
(秋田県にかほ市)

目 次

第 1	にかほ市の概況	
1	位置	1
2	自然	1
3	気象	1
	象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業区域図	2
第 2	区域の設定	3
第 3	区域の現状と課題	
1	農業の現状と課題、今後の方向性	3
2	地域環境の現状と課題、今後の方向性	4
第 4	基本理念	5
第 5	基本方針	5
第 6	計画の推進体制	6
第 7	計画の目指すもの	6
第 8	基本計画	
1	地域農業の発展	7
2	生産基盤の整備	8
3	景観保全と交流人口の増加	9

第1 にかほ市の概況

1 位置

本市は、秋田県南西部に位置し、秋田県由利本荘市に接する東端が東経 140 度 03 分 57 秒、日本海に接する西端が 139 度 52 分 24 秒、南端は山形県遊佐町に接し、北緯 39 度 14 分 07 秒である。

南東に鳥海山、西に日本海を臨む山と海に抱かれた地域で、東西に約 16.6 km、南北に約 23 km の範囲に広がり、面積は 241.13 km² となっており、秋田県内では 14 番目の面積である。

市内を国道 7 号と羽越本線が走り、秋田県南西部の玄関口となっており、日本海沿岸東北自動車道は秋田市側から象潟インターチェンジまでの区間が供用されている。

人口は 25,324 人（平成 27 年国勢調査）で、人口密度は 1 km² 当たり約 105 人だが、鳥海山の山裾が海岸近くまで延び、海岸部の平野部に人口が集中している。

土地の利用状況を地目別にみると、森林原野が約 69% を占め、農用地が約 15%、宅地が約 3% となっている。



2 自然

本市は、緑豊かな山林、清らかな河川、美しい海岸線など、鳥海山と日本海がもたらす自然と歴史にまち全体が包まれた美しい田園都市である。

今から約 2,500 年前（紀元前 466 年）、鳥海山の山体崩壊と岩なだれによって山頂から約 60 億 t もの土砂が崩れ落ち、海岸部まで達している。その際、日本海を広く埋め立て、その地盤の上に現在の市域がほぼ形成されている。

その時に出来た多くの流れ山が、国の天然記念物に指定された「象潟（九十九島）」の原型となっており、その美しい景観は広く知られ、松尾芭蕉をはじめ多くの文人墨客が訪れている。

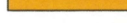
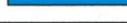
その後、1804 年の象潟地震で約 2 m 隆起し、潟が陸地となり、現在の田園に島々が浮かぶ風景となっている。

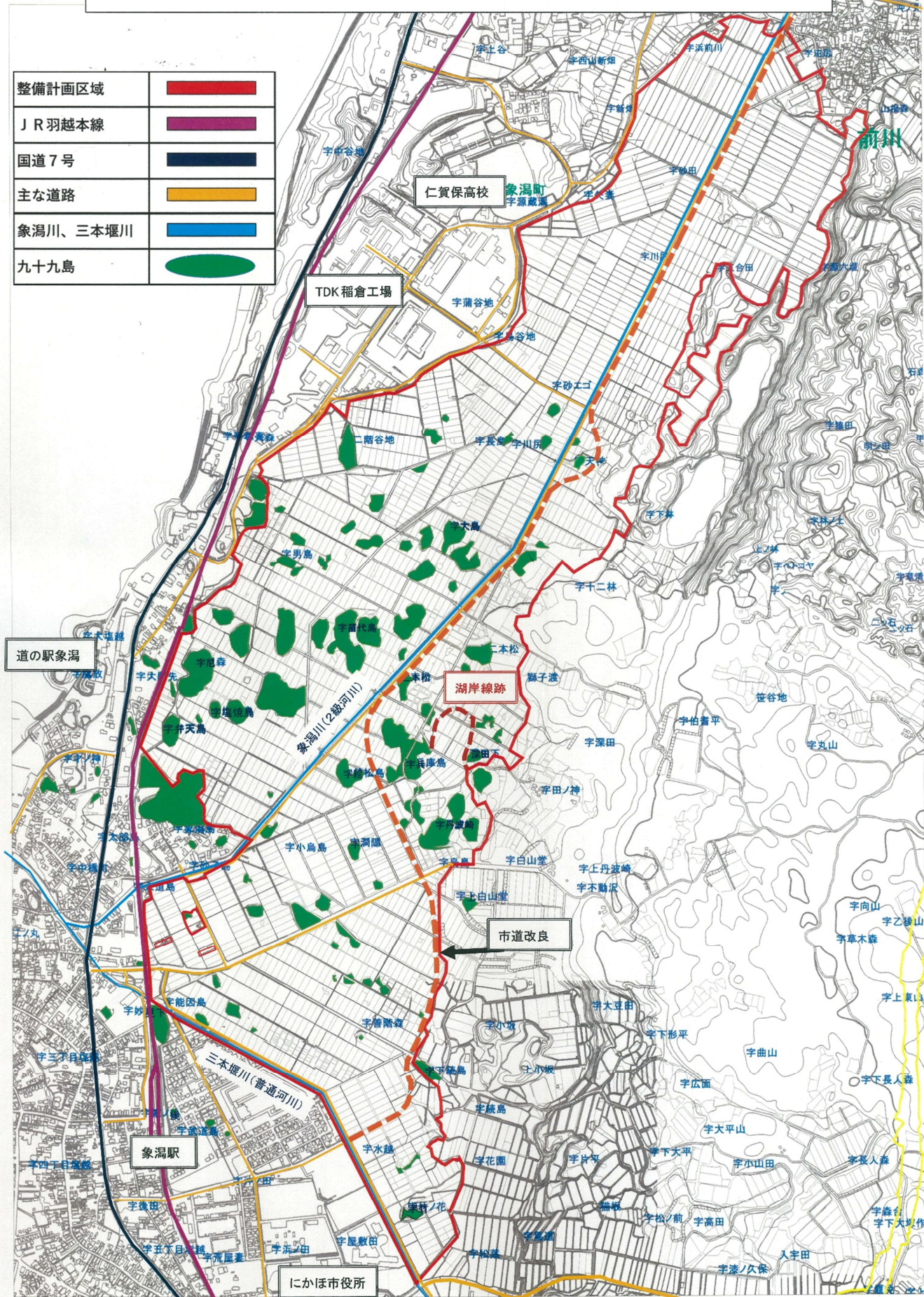
近年は、自然や歴史が「国の名勝」、「日本ジオパーク」、「日本遺産」に認定されている。

3 気象

本市は、気象区からみると亜寒帯に属しているが、近くを対馬暖流が通っている影響を受け、一般的に気温が高く、秋田県内において最も温暖で降積雪量が少なく、農業に適した気候である。

象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業区域図(R3.7月現在)

整備計画区域	
J R 羽越本線	
国道 7 号	
主な道路	
象潟川、三本堰川	
九十九島	



第2 区域の設定

本区域の象潟は、かつて100以上の島々が浮かぶ潟湖として松島と並ぶ景勝地で、俳人松尾芭蕉「おくのほそ道」の最北の目的地として広く知られていた。1804年の地震によって陸地となったものの、天然記念物「象潟（九十九島）」は、周辺の農地と一体となって独特の美しい景観を形成してきたが、現在は、農業の衰退とともに荒廃農地が増え、景観保全にも支障をきたしている。

そのため、営農継続と農業生産性の向上および景観保全によって地域活性化を図るため、農地の地形および水利の状況、農業従事者の営農構想、地域の一体性を勘案し、区域を設定した。

第3 区域の現状と課題

1 農業の現状と課題、今後の方向性

本地区は、昭和35～38年の団体営積雪寒冷単作事業および昭和51～58年の団体営圃場整備事業によって10a区画に農地整備されているが、狭小な区画であり機械作業効率が低くなっている。

農道は幅員1.8m程度と狭隘なため、農業機械の交差が出来ないほか、農道の一部は九十九島を巡る観光遊歩道を兼ねていることから農作業に支障をきたしている。

水路は用排水兼用の土水路であり、法面の崩れや漏水等が著しいほか、恒常的な用水不足地帯であるため、営農および維持管理に多大な労力を費やしている。

また、「ササニシキ」、「ひとめぼれ」を主要品目とする稲作を中心として、希少価値の高い「前川ネギ」等を主とした営農が行われているが、米価低迷や生産調整による農家所得の減少を背景に、農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加などの課題を抱えている。

そのため、農地中間管理機構関連ほ場整備事業によって、1haを主体とした区画整理を行い、大区画整備による維持管理の効率化、道水路整備による維持管理の効率化、暗渠排水整備による農地の汎用化を図る。 ※事業区域面積：約255ha うち受益面積：約225ha



コメは地区の北に位置するＪＡの大型カントリーエレベーターに搬入しているが、その経路となる象潟前川地区を縦断する市道は幅員が狭隘であり、農業従事者はもとより一般車両の通行にも支障をきたしている。

そのため、ほ場整備事業と併せて、地区内を縦断する「市道象潟前川線（仮称）」の拡幅改良および一部区間の新設によって、営農の効率化、流通経路の確保、観光資源（九十九島）の活用を図る。

2 地域環境の現状と課題、今後の方向性

地区内には古くから景勝地として知られる天然記念物「象潟（九十九島）」があり、松尾芭蕉が訪れた蛸満寺とともに多くの観光客が訪れている。また、現在の九十九島は、鳥海山の山体崩壊で形成された入り江が隆起して出来た地形であり、鳥海山・飛島ジオパークの重要サイトとなっているほか、潟湖と陸地の境界の証となる湖岸線など貴重な地形が地区内に多数確認されている。

この景観は、昔から農家の日常の営みで保全されてきたが、近年では、営農に加え景観保護団体の活動や行政・土地所有者の維持管理によって保たれているものの、地区内の30%以上が耕作放棄地となっており、九十九島の景観保全に課題を生じている。

そのため、ほ場整備事業によって、ほ場の大区画化および道水路の改良を行い、農業法人等の経営面積拡大による耕作放棄地の解消を図り、景観・環境の保全と向上を図る。

九十九島



湖岸線



荒廃地の状況 1



荒廃地の状況 2



第4 基本理念

★ほ場整備を契機とした農地の保全と農業の発展

★大自然の営みにより形成され、
先人の献身により遺された景観を後世に継承

第5 基本方針

●地域農業の発展

- ☐ 農業の継続
- ☐ 農業法人設立の推進
- ☐ 農地保全と耕作放棄地対策
- ☐ 収益性の向上とブランドの確立
- ☐ スマート農業の導入

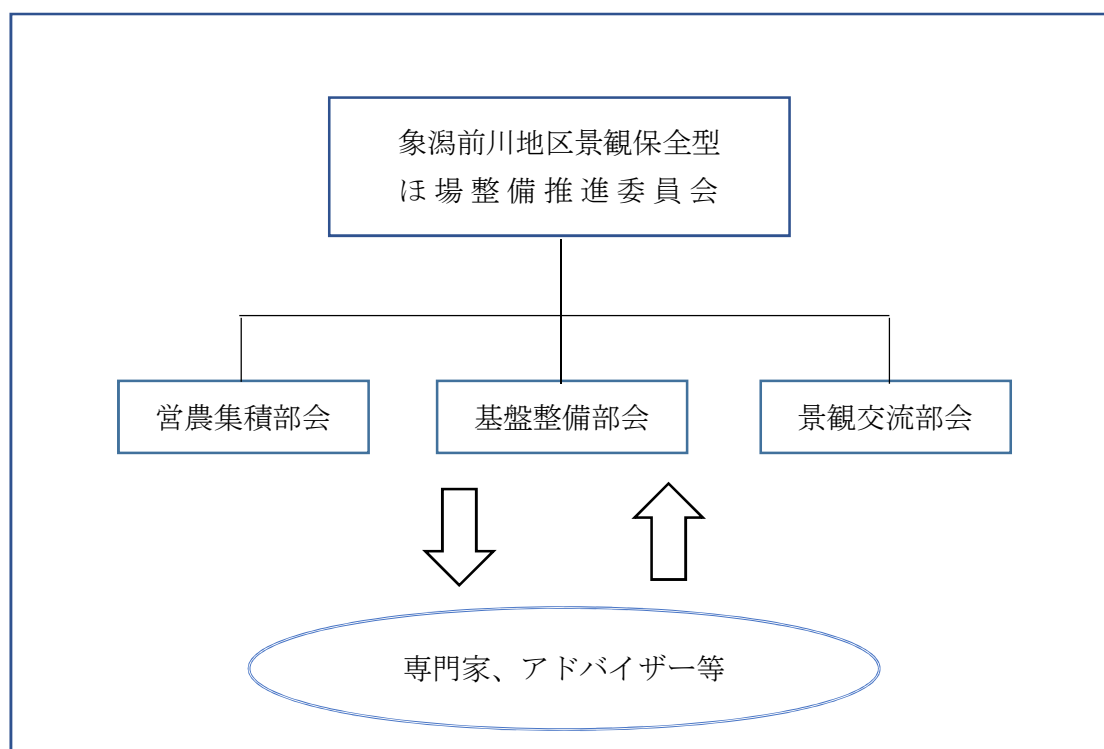
●生産基盤の整備

- ☐ 用排水の効率化と景観配慮
- ☐ ほ場の大区画化
- ☐ 農道整備
- ☐ ほ場整備と市道整備の調整

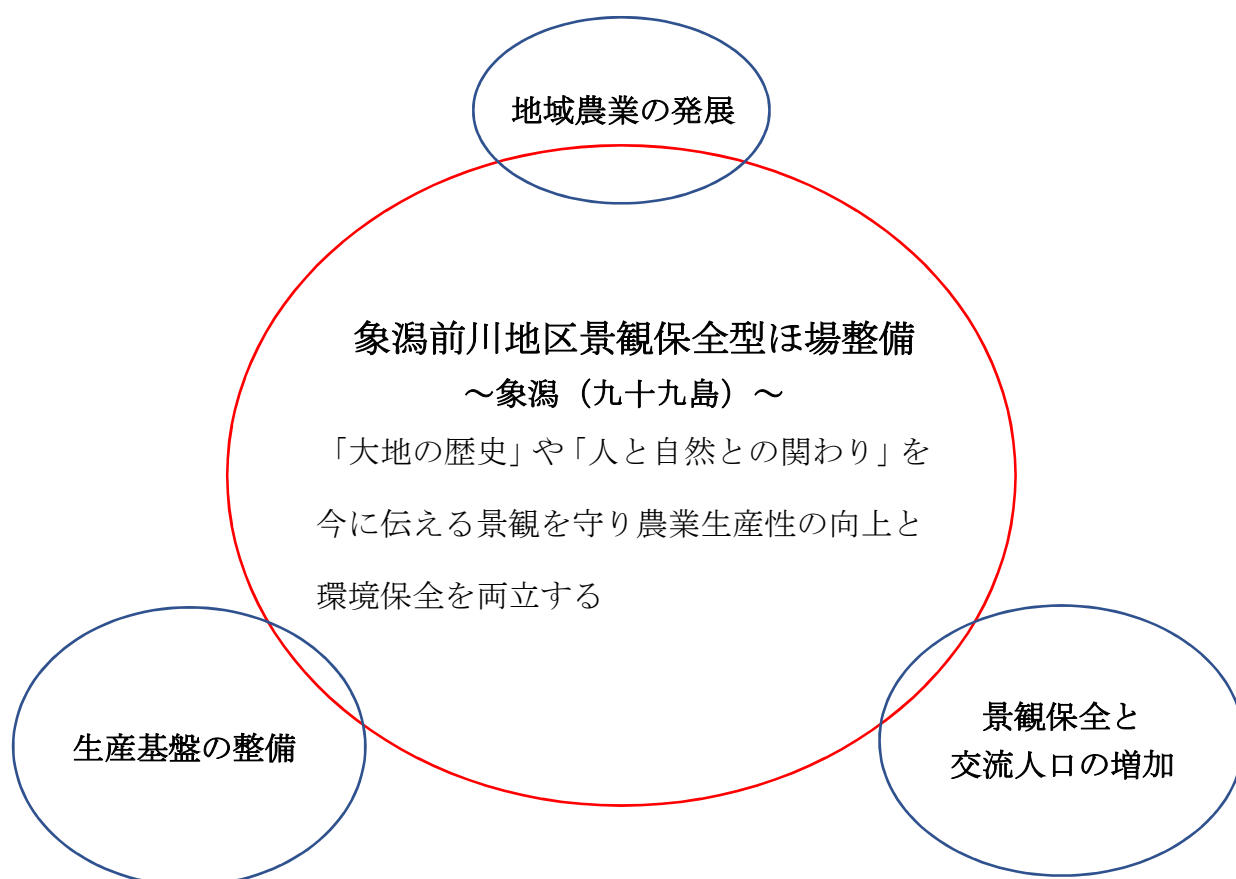
●景観保全と交流人口の増加

- ☐ にかほ市景観計画との整合
- ☐ 生態系、生物への配慮
- ☐ 天然記念物「象潟(九十九島)」の保全
- ☐ ジオサイトおよび湖岸線の保全
- ☐ 交流人口の増加

第6 計画の推進体制



第7 計画の目指すもの



第8 基本計画

象潟前川地区（象潟・九十九島）の「大地の歴史」や「人と自然との関わり」を今に伝える景観を守り、農業生産性の向上と環境保全を両立するため、景観保全型ほ場整備のランドデザインを策定し、目指す方向性を示す。また、専門部会を設け、次の事項について具体的に検討する。

1 地域農業の発展【検討：営農集積部会】

（１）農業の継続

農業従事者の減少と高齢化が進んでいることから、農地中間管理機構を通じて農業法人等へ農地を集積し、作業の効率化および生産コストの低減による農業収益の向上と安定化を図り、本地域の営農を継続する。

（２）農業法人設立の推進

象潟地区、前川地区で農業法人の設立を推進し、営農に係る情報交換や技術交流を図りながら後継者を育成することによって、農業従事者の確保および所得向上を図るとともに、農地の保全・活用を図る。

（３）農地保全と耕作放棄地対策

農地の除草や害虫駆除を適正に行い、畦畔や法面等を含めた農用地を適切に維持管理する。天然記念物「象潟（九十九島）」を現状どおり保全する区割りのため、一部は不整形な水田となり、効率的な農作業が困難な状況が生じるが、将来にわたり耕作放棄地を防止することが必要である。そのため、農業法人等への農地集積による生産コストの低減等によって営農継続を図るとともに、国の多面的機能支払交付金等を活用し、区域の共同活動による農地保全および耕作放棄地防止の対策を検討する。

（４）収益性の向上とブランドの確立

地域高収益作物であるネギ等への転換のほか、農作物の品質向上に努め、天然記念物「象潟（九十九島）」や日本ジオパーク等の景観に配慮した事例を情報発信することによって、その知名度を活かしたブランドを確立し、付加価値の向上によって収益性の向上を図る。

（５）スマート農業の導入

大区画ほ場を有効に活用し、少人数での営農を可能にするため、自動運転農業機械による作付、ドローンによる生育調査や肥培管理など、ＩＣＴ化による営農の効率化および省力化に関する知識を深め、スマート農業の導入を目指す。

2 生産基盤の整備【検討：基盤整備部会】

(1) 用排水の効率化と景観配慮

地域の水利用方法、使用水量について調査を実施し、用排水系統の見直しにより地区全体の用排水の効率化を図る。また、通常のは場整備では水路をコンクリートフリームで装工するが、視覚的に景観に与える影響が大きいことが予想されるため、色使いに配慮した資材の使用やパイプライン化の是非を検討する。水門等についても景観配慮色を用いる。さらに、生態系や動植物に配慮した水路構造なども検討する。

(2) は場の大区画化

現状の 10 a 区画から 1 ha を主体とした区画整備を行うが、極力、周囲の水田の高さを変えないように計画するとともに、施工精度が高い ICT 技術を活用した建設機械を使用するなど、天然記念物の九十九島を現状どおり保全し、島の形状に沿って畦畔や水路等を設けるなど、営農継続と景観保全を両立させるとともに、原則として天然記念物以外の流れ山は、農地として整備する。また、暗渠排水を設置し、水田の乾田化による機械作業効率の向上、地下かんがいの導入による畑作物の水管理の軽労化を図る。

(3) 農道整備

現状の 1.8m (2.3m) 幅員から 4.0m (5.0m) に拡幅することを基本とし、交通量が多い一般道と隣接するは場については、一般通行と農業機械の錯綜を防ぐため、作業機械が一般道から直接は場に入出入りすることがないように農道を配置する。これによって、大型機械の導入や農業機械の交差可能による作業効率および安全性の向上を図る。安全施設についても景観配慮色を用いる。また、使用する砕石は、地場産のものを使用するとともに、現場で発生した岩の有効活用を検討する。

(4) は場整備と市道整備の調整

大型カントリーエレベーター等への利便性向上のため、合併 (H17.10 合併) 前の旧仁賀保町、旧金浦町、旧象潟町の三町を結ぶ基幹農道として農免道路の整備に着手し、平成 10 年代前半に、旧仁賀保町から旧金浦町までは整備が完了した。

しかし、旧金浦町から旧象潟町までの区間は、天然記念物「象潟 (九十九島)」等の事情によって整備が実現しなかった。

今回ののは場整備計画に合わせて、地区内を縦断する「市道象潟前川線 (仮称)」を拡幅改良と一部区間を新設することによって、営農の効率化、流通経路の確保、九十九島の観光資源の活用を図る。新設区間については、は場整備の区画割りを優先したルートとする。また、事業用地については、は場整備事業に伴う「特別減歩見合いの創設換地」で関係者全員の同意を得て用地を創出する。

3 景観保全と交流人口の増加【検討：景観交流部会】

(1) にかほ市景観計画との整合

にかほ市景観計画において、本地区は田園景観ゾーンの重点地区「九十九島ゾーン」に該当し、本市の歴史・文化の拠点として、その景観の保全と活用を図るゾーンとなっており、水面に浮かぶ島々の景観を保全するため、島周辺は水田を原則とし、景観計画との整合性を図りながら、ほ場整備事業を行うものとする。また、景観を阻害している電柱について、無電柱化（電線類地中化）を検討する。

(2) 生態系、生物への配慮

生物環境調査等を実施し、土地改良法に定める環境との調和に基づき、地区外への避難や生態系および生物へ配慮した水路構造などを検討し、ほ場整備事業を行うものとする。

(3) 天然記念物「象潟（九十九島）」の保全

天然記念物に指定されている島については、現状どおりの形状で保全する区割りとし、島の維持管理および周辺ほ場の病虫害防除の観点から、全ての島に畦畔等を接続する。

また、島の草刈りは保護団体およびボランティア等が担い、松の木は補助事業等によって松くい虫防除対策を講じて適切に維持管理する。

(4) ジオサイトおよび湖岸線の保全

本地区は、日本ジオパーク「鳥海山・飛島ジオパーク」が、世界ジオパークへの認定を目指す上での重要なジオサイトとなっているため、景観の保全と向上を図る。また、1804年の隆起前の潟湖と陸地の境界の証となる「湖岸線」は貴重な地形遺産であり、学術的価値も高いことから、当時の形状が保存されている重要度の高い湖岸線跡については、積極的な保護・保全を図る。

(5) 交流人口の増加

ア これまで狭小な耕作道が、「東北自然道（新・奥の細道）」や「島めぐりコース」等のルートとなっていたが、ほ場整備で整備された農道を活用し、これら散策路を再設定する。

イ 散策路等では、山体崩壊による九十九島の成り立ち、水面に浮かぶ九十九島の様子をAR技術で再現し、スマホやタブレットで体験可能なシステムを構築する。

ウ 散策路には長時間を要するコースもあるため、散策路付近へのトイレの設置を検討する。

エ 小区画であった水田が大区画に整備されることによって、大きな水面に浮かぶ九十九島と逆さ鳥海山、緑の絨毯の九十九島、稲穂による黄金色の海に浮かぶ九十九島、雪景色の水墨画のような九十九島など、四季折々の九十九島を観光の柱としてPRする。

オ 鳥海山の裾野を彩る「象潟（九十九島）」の景観を、ワーケーションやリモートワーク移住の促進に向けたPRの重要な要素とする。

カ 環鳥海地域の周遊ツアーを造成し、通過型観光から滞在型観光へシフト転換するとともに、ほ場整備区域で収穫された農作物を市内の宿泊施設や道の駅などで提供し、観光客へ地場産品のPRを行うことによって、農作物の出荷量を増加させる。